沖縄担当大使通信
第 11 回　TOFU プログラム募集開始

2026 年（令和８年）10 月 30 日



TOFU プログラム参加者の米国務省訪問（2026 年３月 20 日）

今月、沖縄の高校生・大学生を米国に派遣する「アメリカで沖縄の未来を考える」（TOFU: Think of Okinawa's Future in the United States）プログラムの募集を開始しました（締切りは 11 月 25 日（水））。

このプログラムは、沖縄県の高校生・大学生等が米国のありのままの姿や国際社会における日本の役割を学ぶ機会を提供し、日米の相互理解の増進を図るものです。参加者は、約１週間の日程で東京、ワシントン DC 及びニューヨークを訪問し、日米政府要人との意見交換、米政府機関の視察、国連訪問等を通じて国際的な視点を養うとともに、事後に提言を取りまとめて発表します。今回の沖縄担当大使通信では、TOFU プログラムのこれまでの経緯や関連行事をとりまとめて紹介したいと思います。



外務省の TOFU プログラムのウェブサイト（2026 年 10 月現在）

●TOFU プログラムの経緯

TOFU プログラムは、2017 年度に始まり、2018 年３月にワシントン DC とニューヨークを訪問しました。翌年（第２回）も同様の形で実施しましたが、2019 年度は新型コロナの影響で取りやめとなり、2020 年度（第３回）は東京とオンラインの組み合わせ、2021 年度（第４回）はオンラインでの実施となりました。

2022 年度（第５回）からはワシントン DC 及びニューヨークへの派遣を再開しました。派遣後に行われる事後報告会は、当初は自治体別に行われていましたが、2023 年度（第６回）には全参加者が出席して開催されるようになり、2024 年度（第７回）からは参加者にプログラムの経験を踏まえたアクション・プラン（提言）を発表してもらっています。2023 年度には派遣前オリエンテーションも始まりました。

さらに、2024 年度からは、参加者の中から日米交流学生大使が任命され、帰国後も、日米交流行事の企画、TOFU 同窓生の交流、ウェブサイトや SNS での情報発信等の活動をしています。これまでの TOFU プログラムの経緯と発展については、外務省の TOFU プログラムのウェブサイトに関連情報をまとめて掲載していますのでご覧ください。



派遣前オリエンテーション（2026 年 2 月 23 日、於：外務省沖縄事務所）

●派遣前オリエンテーション

私が最初に参加した TOFU 関連行事は、本年２月、2025 年度（第８回）参加者 30 名のために外務省沖縄事務所で開催された、派遣前オリエンテーションです。この場で、TOFU プログラム参加者はお互いに自己紹介し、３月の東京・ワシントン DC・ニューヨークの各行事での役割分担を行って、派遣に向けての準備を進めました。

私からの挨拶で TOFU プログラム参加者への期待を伝えたほか、アンドリュー・オウ在沖米国総領事から激励のビデオ・メッセージをいただくなど、出発前に考えを深める機会になったと思います。高校生から大学生まで、県内の出身校や出身地も様々ですが、だからこそ同じプログラムの下で、グループ毎に共同して準備に取り組む意義があると感じました。



アーリントン国立墓地訪問（2026 年 3 月 20 日、於：ワシントン DC）

●東京・ワシントン DC・ニューヨークへの派遣

３月には、今回の参加者が東京、ワシントン DC、ニューヨークに計８日間の日程で派遣されました。その様子は、是非５分間の紹介動画で見ていただければ幸いです。

今回、東京では木原稔官房長官、堀井巌外務副大臣、宮﨑政久防衛副大臣他を表敬しました。ワシントン DC では国務省、米国議会、日本大使館などを訪問し、現地の学生とも交流しました。今年は、高市総理の米国訪問と時期が重なり、アーリントン墓地で献花される総理の様子を最前列で見学してもらうことができました。また、ジョージ・ワシントン大学では、沖縄県が寄贈した「オキナワ・コレクション」を見学し、職員の方からお話を伺いました。ニューヨークでは国連日本政府代表部、国連本部などを訪問し、国連日本人職員による講義を受けたほか、現地の日系人の方々をお招きしての日本総領事館主催のレセプションにも参加しました。

TOFU プログラムの特徴の一つは、日米外交・日米同盟や国連外交の現場を実際に訪れ、その担い手と直接対話できることにあります。外務省は在外公館と連携し、関係機関の協力を得て、これらのプログラムを沖縄の高校生や大学生に提供しています。



TOFU プログラム事後報告会（2026 年 4 月 26 日、於：宜野湾市内）

●事後報告会

４月下旬、宜野湾市で事後報告会が開催されました。TOFU プログラム参加者やご家族、過去の TOFU プログラム参加者に加え、本プログラムの実施に御協力をいただいている国会議員、県内自治体の首長、沖縄県知事、県議会議員、経済界、在沖米国総領事館・在沖米軍の関係者など約 200 名に御参加いただきました。

冒頭の堀井外務副大臣挨拶とプログラム概要の動画放映の後、TOFU プログラム参加者は５グループに分かれて、沖縄の未来に向けた提言を日本語と英語で発表しました。各グループからは、①沖縄での日米空手交流、②若者によるミニ外交フォーラム、③中学生向けの国際相互理解ワークショップ、④対話型教育プロジェクト：安全保障と沖縄の未来を考える、⑤沖縄各地での文化・共存・歴史・平和ゆんたくと日米高校生によるユースキャンプなど、具体的かつ自らが担い手となる内容の提案がありました。

私自身、事後報告会に参加して、TOFU プログラム参加者がそれぞれの問題意識や提案を幅広い関係者と共有し、考えを深める機会として大変有意義と感じ

ました。



グループ２のアクション・プラン「ミニ外交フォーラム」
（2026 年９月 19 日、於・嘉手納外語塾）

●アクション・プランの実施

５つのグループは、発表したアクション・プランを実行に移しています。９月にはグループ２の「ミニ外交フォーラム」、10 月にはグループ４の「沖縄の基地問題を考える学生対話ワークショップ」が実施されました。

９月の「ミニ外交フォーラム」は、TOFU プログラムに参加した経験から、「日米関係を真面目に語れる環境をつくる」「対話を通じてタブーを乗り越える」「いろいろな視点を知る」ための相互理解が重要と感じたことを実践につなげるため、嘉手納外語塾生と嘉手納飛行場所属の若年層を対象に英語による意見交換セッションを企画し、嘉手納外語塾の協力を得て実施されました。

10 月の「沖縄の基地問題を考える学生対話ワークショップ」は、沖縄の高校生・大学生と早稲田大学の学生が共に学び、基地問題を自分に関わる問題として考える機会を作る取組です。米軍施設周辺の生活への影響や、訓練や安全保障に関わる事情について、約40名がオンラインで参加し、グループに分かれて

真剣な議論が行われました。



日米交流学生大使が企画した嘉手納飛行場の視察
（2026 年 8 月 18 日、於：嘉手納飛行場）

●日米交流学生大使

米国派遣の後も、日米交流学生大使が TOFU プログラムの歴代参加者に呼びかけて、在沖米軍施設・区域の視察や米軍人との意見交換、日米共同のボランティア清掃活動への参加などを実施しています。その活動は、TOFU 情報ポータルで紹介されています。

TOFU プログラムは、2027 年度に 10 周年を迎えます。関係自治体の皆様を始め様々な方々のご協力をいただき、ここまで発展することができました。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げるとともに、更なる発展に向けて、引き続きご意見・ご協力をいただければ幸いです。

沖縄担当大使
紀谷昌彦